



## 特集

「平成30年度福祉教育セミナー  
～学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育～」

## ボランティア探訪

### 社協の取り組み

#### 福祉学習の推進

～羽咋市社会福祉協議会～

羽咋市ボランティアセンターは「任んでいて良かったまちづくり」のため幼児期から大人までの福祉学習を推進しています。

小学生対象の「出前！ちびっこボランティアスクール」は、年間17回行っており、肢体視覚、聴覚の障がい当事者（講師）と支えるボランティアと共に訪問し、当事者のお話や体験を通じ各障がいの特性を知ってもらう事で、障がいのある方の世界を知り、今の自分ができることは何かを考えるきっかけ作りとしています。

当センターでは、年代に合わせて依頼内容を確認し、講師、ボランティアへつなぎ、準備や日程調整などを行っています。障がいについてお話を下さる方やボランティアの方は年々少なくなっています。

私たちは、想いを伝えたい、聴きたい、と思っている方たちがつながるよう、いろいろな課題へ対応しながら継続していきたいと思っています。



▲視覚・聴覚の当事者講師のお話



▲肢体の車いす体験  
ボランティアが車いすについて説明を行っている。

### 学生の取り組み

#### 今夏のサマーボランティア体験

～石川県立鹿西高等学校～

鹿西高校は、中能登町にある全校生徒435名の普通科高校です。本校では、体験的・実践的な学習を重視し、望ましい勤労観・職業観を育み、興味・関心・適性などを踏まえた進路選択ができるよう教育課程の編成や指導の充実に努めています。本校では、サマボラには毎年参加していますが、今年は51名もの生徒が参加し、そのうち、37名が保育園に、12名が高齢者施設に、そして2名が障害者施設で体験しました。

「1、2年のうちに体験しておけばよかった！」3年女子・保育園「やっぱり、挨拶と返事は大事」「介護施設のイメージが変わった」「体験しなければわからないことがある」と実感した（2年女子・高齢者施設）など参加生徒の多くの気づきや充実感が伝わってきます。

これらの感想や画像を掲示する作業に関わった1年生は、「障害者や高齢者の施設も体験してみたくなった」といいます。来年も多くの生徒が参加しそうな予感がします。



▲地域密着型介護老人施設  
第二鹿寿苑にて



▲学校祭（8/31、9/1）にて掲示

### 企業の取り組み

#### 児童養護施設で生活していた子どもたちに成人式の振袖を

～株式会社サンレー～

数年前より、石川県共同募金会を通じて高齢者施設へ車椅子の寄贈と児童養護施設への寄付を行ってきました。施設や関連する団体の方々と話をする中で、児童養護施設で生活していた子どもの中には、成人式に振袖を着ることが叶わない子や、振袖を借りるために寝る間も惜しんでアルバイトをしている子がいることを知りました。

サンレーは冠婚葬祭業であり、成人式衣裳のレンタルも行っています。子どもたちへの振袖の無料レンタルであれば、社業を活かすことができるのではないかと考えから、施設を巣立った子どもたちへの成人式衣裳を無償提供することを決め、来年は8名の方にご利用いただけます。

振袖の見立ての日には、児童養護施設の職員の方々も付き添ってくれ、約1年半ぶりに会う子どもたちが振袖を羽織る姿をみて、「急に大人っぽくなった」と嬉しそうです。

これからも人と人とのつながりを大切にしながら、地域に必要とされる会社を目指して、社会貢献活動に取り組んでいきます。



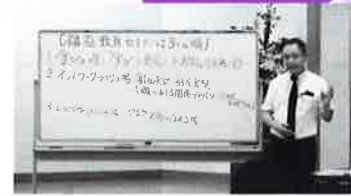
▶「無理をせず継続的に取組んでいきたい。来年1月の成人式が滞りなく終わるよう細やかに対応していきたい。」とサンレー営業企画課長 西氏



▲振袖の見立てに来た子どもたちは、緊張しながらも笑顔がこぼれます。

# 協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育～

育大学の新崎国広教授をお迎えし、学校、福祉施設、社協関係者が地域共生社会



大阪教育大学 教授 新崎国広氏

## 《関わり合うよさを感じる福祉教育》

白山市立北陽小学校 教頭 大野 登志文 氏

本校は児童531名、19学級編成。本校の自慢を二つ。一つは下足箱の整理整頓がきれいにされていること。もう一つは、毎学期に1か月間(週1回)、ノーチャイムデーを設けて学校生活を送っていることです。

学校教育目標は「豊かに生きる力を持ち、未来を創造する児童の育成」。

本校で取り組んだ主な取り組みは、4年生の総合的な学習の時間で福祉を扱い、「障害を持った方、高齢者などとの交流を通して、関わり合うよさに気づき、共に生きていこうとする態度を養う」をテーマに設定しました。

### 1 出前授業「福祉って何だろう」

- ・ 白山市社会福祉協議会職員の方を講師に、福祉についての講義をお願いしました。
- ・ 福祉という言葉はよく耳にするが、福祉について考えるきっかけとなりました。

### 2 盲導犬について知ろう

- ・ 視覚障害のある方と盲導犬をゲストに、日常生活についてお話していただきました。
- ・ 盲導犬に接する機会がないため、興味深く話を聞いていました。

### 3 視覚障害者の方の生活について知ろう

- ・ アイマスク体験で、見えない怖さを体験したが、ガイド役の声に安心感を覚え、相手に伝えることも難しさを実感。また、点字体験から、視覚障害の方々の大変さと同時にすごさも実感した様子。

### 4 聴覚障害の方の生活について知ろう

- ・ 生活を支える様々なツール(光る道具がついているインターホンなど)を紹介。
- ・ 手話通訳者と聴覚障害の方から、手話を教えてもらった。コミュニケーションを取るために手話を含めて様々な工夫がされていることを学びました。

### 5 車椅子バスケット体験

- ・ 市社協と車椅子バスケットチームをゲストに招いて車椅子体験。
- ・ 車椅子バスケット用の車いすは生活用に比べ軽く作られており、転びにくくしてあるなど工夫されていることや、肢体不自由でもみんなと同じようにスポーツを楽しむことができることが理解できました。

### 6 調べてみたいこと、一番印象に残ったことを壁新聞にまとめ保護者に発表。

- ・ 何かしらのハンディがあっても前向きに生活していることや、そのための様々なアイテムがあることを実感できました。
- ・ 共に生きるために相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さを実感することができました。



白山市立北陽小学校  
教頭 大野登志文氏

## 新崎先生のコメント

白山市立北陽小学校の素晴らしい取り組みにおいて、注目すべきポイントは次の3点です。

- 1 学校単独ではなく社会福祉協議会と協働で実践されていること。社協が学校へゲスト講師や当事者団体の紹介や、学校だけでは準備が難しい福祉機器の準備や提供している点です。
- 2 次に、疑似体験学習(アイマスク、点字、車椅子)に障害当事者の方をゲスト講師として招聘し、ゲスト講師と体験学習をうまくミックスしている点です。障害疑似体験では、当事者の不便さや生活のしづらさを感じるかもしれないが、ゲスト講師の語りや笑顔から生きる喜びを感じることができます。車椅子バスケットでは、格好いいと思う気持ちも持つと同時に、まちで障害者に出会った時、ふだんの暮らしの中で不便な生活をされていることや、努力されていることも実感することができます。
- 3 これまでの手話体験や点字体験の学習では、手話を覚える、点字を打つことが目的で、一番大切な当事者とのコミュニケーションのための手段という視点が弱い実践が多くありました。今回、その点を踏まえて実践されていることが特に印象的でした。



金沢会場



# 平成30年度福祉教育セミナー ～学校・地域・家庭の

平成30年8月21日(火)22日(水)、平成30年度福祉教育セミナーが開催されました。講師に大阪教の実現をめざす福祉教育の在り方について理解を深めました。

今回はセミナーで発表をいただきました2校の福祉教育の実践をご紹介します。

## 《福祉教育の取り組みについて》

宝達志水町立押水第一小学校 教諭 福島 朋尚 氏

本校は児童88名、8学級編成の小規模校です。本校では、福祉は全ての人々がよりよく生きることと捉えています。各々が違いを受け入れ、全ての人をかけがえのない人として尊重するためには、共に生きる力が必要であると考えます。共に生きる力とは他者を理解すること、他者の立場に立ち考えること、みんなと仲良くできることです。共に生きる力の育成のために本校では異世代間の交流体験を重視しています。

体験活動を設定する上で大きな力になる本校の強みは次の点です。

- 1 登下校の見守りなど日々の教育活動を支えてくださる学校支援ボランティア「思いやり隊」の存在。
- 2 PTAとの連携が取りやすいこと。
- 3 宝達志水町社会福祉協議会や近隣の高齢者施設等から協力を得られること。



宝達志水町立押水第一小学校 教諭 福島朋尚氏

### 本校の取り組み

- 学校支援ボランティア「思いやり隊」の方々との交流
  - ・ 草取り交流会 草取りの仕方を教えていただき、様々な話をしながら交流。
  - ・ あじさい交流会 1,2年生と校庭中庭に咲いたあじさい鑑賞や昔遊びなどで交流。
  - ・ 感謝の茶話会 2月、6年生が卒業前に感謝を伝えるための茶話会。
- 6年生の総合学習における取組「福祉について考えよう」
  - 福祉について調べ、その意義を理解し、自分の生き方を考えることを目的に、町社協、特別養護老人ホーム宝達苑のご協力を得て実施した学習体験。
    - ・ 高齢者疑似体験 社協から装具をお借りし実施。装具をつけ、友達同士でサポートしあい、どのような補助が必要なのか、自分たちに何ができるのかを考える機会となりました。
    - ・ 認知症サポーター養成講座 町の地域包括支援センターの協力を得て開催。認知症の方への対応や特性について具体的に学びました。
    - ・ 高齢者福祉施設訪問 風船バレーや折鶴のプレゼントなどを通し入所者と交流。
    - ・ 学びをまとめて発表会 これまでの学びを壁新聞にまとめ発表。

児童アンケートから、「友達と仲良くし、助け合う」、「地域や家庭、学校であいさつができる」など助け合う心や思いやる心の育ちを見て取れました。これも地域、施設、社協などの協力連携があつてのことです。今後も児童の心を育む活動の意義や目的をこれらの機関と共有しながら継続した連携が大切であると考えています。

### 新崎先生のコメント

押水第一小学校の実践を拝聴して、特に素敵だと感じた事が3つあります。

- 1 社協、施設、地域住民など地域の資源やその特性を生かした福祉教育の実践に共感しました。
- 2 次に、子どもたちと地域住民が異世代交流を通して、相互承認している姿が窺えます。住民の方が子どもたちを心や体、言葉でその存在を認める。それを受けて私は住民の方に愛されていることを実感します。住民の方は自分が関わることで、子どもたちに喜んでもらえ、役に立ったという実感をえられる。双方向にメリットがある、まさにwin-winの関係づくりです。また、施設利用者にとっても子どもたちが関わることで元気につながります。
- 3 学校、社協、包括支援センター、福祉施設など専門性を活かし、順序だてて丁寧に福祉実践されている点です。障害疑似体験、車椅子、アイマスク体験は効果的ですが、そのみの体験だけ終わると年齢を重ねることはしんどいだけだとか、車椅子はかわいそうだという生きづらさを実感するだけで、マイナスに作用してしまいます。疑似体験のみで終わるのではなく、例えば地域の高齢者と一緒に作物を作るとか、交流をする。その中で高齢者は優しいなあとか素敵だなあという気持ちを醸成することで、疑似体験などがプラスに作用し、高齢者も大変な思いをして生きているといった思いやりや相手の痛みを知ることに繋がります。



七尾会場

# ボランティア活動振興基金 ～活かしますあなたの善意～

ボランティア活動振興基金は、昭和57年、ボランティア活動を支援するために設置されました。県からの補助金や企業や個人からの寄付金を積み立て、その運用益（預金利子）で、福祉ボランティア活動の環境づくりを進めています。

## こんなとき こんなお金を

企業の社会貢献として  
 祝いごと、香典返しの一部を  
 企業・商店・各団体の開設、創立記念として  
 お買物のおつり、おこづかいの残りを  
 お給料から毎月コツコツと

※ボランティア活動振興基金へのご寄付は税控除の対象となります。

## 基金の状況

■基金現残高  
 397,375,380円 平成30年10月末現在  
 内訳（民間寄付金 197,375,380円）  
 県補助金 200,000,000円  
 ■基金利息見込額（平成30年度）  
 約6,079,000円

## 基金はどのように活用されています～ボランティア活動機器備品等助成事業～

県内のボランティアグループの活動の充実に必要な器材の購入費用の助成をしています。ボランティアセンター運営委員会において、今年度は50団体に助成することが決定しました。

### 平成30年度ボランティア活動機器・備品等助成事業

#### (1) 福祉枠

No.	登録団体	グループ名	助成対象機器・備品	助成額
1		手話サークル 手の会	スチールキャビネット	32
2		ボランティアサークルかがやき	JVCケーブル、テレビ、スピーカー	78
3		なんぼやすらぎボランティアサークルひなたぼっこ	物置	92
4		和太鼓天地	英音型台、附細太鼓用立ち台	100
5	金沢市	金沢要約筆記サークル	プロジェクタ、プロジェクトスクリーン	90
6		あゆみ療育の会	プリンター	24
7		いしかわ福祉水泳協会	プロジェクター	95
8		ワズメズ・エンパワーメント交流プロジェクト	プリンター	36
9		総合支援ボランティア団体GRANDE	ワイヤレスマイクスピーカー、ワイヤレスマイク	100
10		あかず琴	音響用スピーカー、スピーカースタンド	82
11	小松市	小松要約筆記サークル	モバイルスクリーン、プロジェクター	100
12		音訳ボランティア 陽だまり会	ノートパソコン	96
13		ぽっかぽかサロン	Aニマルメモ、電気ポット、大きな日本地図バスル、色鉛筆（12色セット）、色鉛筆（24色セット）、木製すし桶（42cm）、木製すし桶（24cm）、寒天漬し器、エプロン、脱脂パー、パンダナセット、ひだ指	75
14		音訳サークル小波	オーディオインターフェイス、コンデンサーマイク、マイクスタンド、CDラジカセ	77
15	輪島市	すくすくクラブ	ワイヤレススピーカーセット、ワイヤレスマイクヘッドセット	100
16		もろおかボランティアグループ	録音コンロ、二口調理器、ゴムホース、ゴムバンド、二口コックヒューズホース、オリコン	73
17		あすなるボランティアグループ	オルステンレス三きき、炊飯ジャー、スリムストレータ（脱臭ユニット）、スリムストレータ（除菌ユニット）、スリムストレータ（抗菌）、フェミニネ（消臭剤）	34
18		琴城流大正琴ヶ浜会	大正琴アンプ、大正琴ダイレクトボックス（DB-2、DB-3）	76
19		山中温泉ゆけむり倶楽部	双眼鏡、三脚アダプター、三脚、カメラアダプター	100
20	加賀市	サロンたんぽぽ	お座敷チェア	96
21		下谷げんきくらぶ	フォームディスク、ヒットだ！ターゲット、グラウンドゴルフセット	100
22		本町いきいきサロン	お座敷チェア、ホイッスル付メガホン	55
23		天の川サロン	テレビ	99
24		柴垣ふれあい広場	ハイビジョン液晶テレビ	100
25	羽咋市	あけぼの会	お座敷チェア、電卓機、ハイビジョン、ハイビジョン	93
26		粟生ひだまり会	テレビ、カラオケ	98
27		ほほえみの会	プロジェクター	95
28		尾長出お茶飲みの会	ワイヤレスマイク付き拡声器スピーカー	67
29	かほく市	舞踊系乃の会	スピーカー、マイク、マイクケーブル	100
30	白山市	ボーイスカウト松任第1団	テント（2ルームハウス）、テントシートセット（2ルーム用）、ベントコット	100
31		白山音訳の会 草笛	ノートパソコン	90
32	野々市市	ボランティア一座希望の会	ミニジグコンソール、照明ランプ、収納ケース	100
33	志賀町	集いの場サロン遊和	会議用テーブル、パイプ椅子（6脚組）	87
34	宝達郡	宝達サロン	座卓テーブル	52

35		おうたの時間	ノートパソコン	99
36	穴水町	いきいき	職業用ミシン、ニードルパンチアタッチメント	100
37		穴水むかし話の会「えんなか」	い草ラグ涼香	3
38		波並なかよしサロン	クーラーボックス、DCフルリモコン扇風機、ハイビジョン扇風機、オープンレンジ、ラジカセ、ホットプレート	99
39		姫ゆり会	ホットプレート、ガス炊飯器、ガステーブル	96
40	能登町	大杉谷シニアの会	衆々お座敷チェア（ひじ付）、電動給湯ポット、ガラス魔法瓶、スティックサイクロンクリーナー	97
41		当目おたのしみ会	カラオケ、カラオケアンプ、ブルーレイ、ケーブル	98
42		立壁・四方山あつまるう会	ラジカセ、CDシステム、プリンター、B8Qコンロ、メッシュグリルテーブル、たこ焼き器	83
43		オカリナフレンズ、ブルーマウンテン	オカリナ演奏専用マエストロSF管、AC管	100
44	石川県	夕日寺自然体験実行委員会	液晶テレビ	90
45		ブランド・ガイドRUNサークルあいらず	伴走用ピブス	82
		小計		3,739

#### (2) まちづくり枠

No.	登録団体	グループ名	購入希望機器・備品	助成額
1	金沢市	金沢高尾城址見晴らし台愛好会	エンジン刈払機、電動刈払機、車用ワンタッチエアポンプ、フェイスプロジェクター、刈払機用燃料タンク	95
2		NPO 法人石川県防災士会	防災用ヘルメット	100
3		千坂地区社会福祉協議会おたすけ隊	扇風機	99
4	宝達郡	妻生区民の交流を進める会	プロジェクター、スクリーン、プロジェクターケース	99
5	石川県	NPO エコラボ	ソーラークーラー、小型プロジェクター、車上電源増設機	99
		小計		492
		合計		4,231

(1) 福祉枠…高齢者・障害者・児童福祉に関わる活動  
 (2) まちづくり枠…「福祉のまちづくり」につながる活動

### ボランティアサークル わじまウクレレの会（輪島市）

ウクレレ10本購入

福祉施設でのボランティア活動为目标に、昨年11月から月1回のペースでレッスンを行ってきました。11月には、輪島市ボランティアフェスティバルでその成果を初披露します。

派手なユニホームを揃え4曲精一杯演奏し、歌いたいと頑張っています。小さなウクレレから醸し出す、温かみとやさしさを今後精進して、広く「アロハ」の意味を込めて伝えたいと思う今日この頃です。



手話サークルとコラボ  
 輪島市ボランティアフェスティバル

### ふれあいネットワーク

発行／社会福祉法人 石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒920-8557 金沢市本多町3丁目1番地10号

☎(076)234-1616 FAX(076)222-8900

E-mail: iver@isk-shakyo.or.jp URL: http://isk-shakyo.or.jp/volunteer/

### ボランティア活動振興基金のシンボル・キャラクター「ユーくん」です。

生まれました、昭和60年3月29日、この日に新聞広告で県民の皆さんに発表されました。

生みの親は、当時、金沢美術工芸大学で工業デザイン専攻の野村靖治さんで、ボランティアとして制作していただきました。

名付け親は、新聞等で公募した結果、最優秀賞を受賞された西田ひろ美さん（金沢市）「ユウちゃん」と二法田圭子さん（金沢市）「優くん」で、補作したものです。優しさ、勇気、友達「ユー」です。

